

大切な命に責任を持とう

一年 渡部菜々子

今年是世界中でコロナウィルスの脅威にさらされ、人だけではなく、犬や猫などのペットにもウィルスの感染が報告された。その数は多くはなかったはずが、感染源になるとの誤解から、世界で飼育放棄や殺処分が起きたそうさ。

ペットの飼育放棄は、日本でもたびたび問題になってきた。環境省の統計資料、最新の犬と猫の殺処分数は合わせて三万八千匹以上。しかし、殺処分ゼロにしようと活動する保護団体の努力により、以前よりは殺処分数は減ってきているのが現状だ。

今回のコロナ騒動で、そういった保護猫・保護犬の里親探しもままらなくなっている様だ。なので、今年度は、ますます殺処分される猫や犬が増えていないかとても心配だ。

私の祖父母が飼っている「チョッキー」は今では老犬だ。チョッキーは、まん丸な目にキツネ色の毛の、可愛い柴の雑種の男の子だ。

彼はみんなの人気者で、祖父と小学校の登下校のパトロールに行き、あいさつ運動をしていた。しかも毎日。私が祖父に

「どうして毎日パトロールに行くの。」

と聞くと祖父は

「それがチョッキーの仕事だからさ。チョッキーがいると皆んな喜ぶんだよ。」

と言った。通学路に祖父が立ち、可愛い柴犬がお座りしている光景を見れば、だれでも

「チョッキー可愛いねえ。」「チョッキーおはよう。」

と声をかけるだろう。心が安らぎ元気が出ること間違いなしだ。小学生たちも、優しい祖父とチョッキーに会えるのを楽しみにしていたと思う。

祖父母は、チョッキーがあまりにも可愛いのでおやつをあげすぎたり、いっしょのベッドでねたりとついついあまやかしてしまう事も、そんな中で育ったチョッキーは祖父母の心の支えであり、家族の一員なのだ。チョッキー自身も、こんなに優しい人に大切に育ててもらい幸せを感じているはずだ。私たち家族が祖父母の家族の家に遊びに行った時、チョッキーは、待つてましたと言わんばかりにハアハアしながらじゃれてきた。みんなでチョッキーをたくさんなでた。祖父母がチョッキーと過ごしているのを見ると、チョッキー、愛されてるなと本当に思う。

今はお年で、よたよたして走る事はなくなってしまうけど、今まで通り優しくなでたりすると、うれしそうに目を細める。祖父母からこよなく愛され、元気に育ててくれて、チョッキーは祖父母の事が、今までも、これからも、大好きだと思う。

皆んなが、祖父母のように飼っている動物を愛し、大切に最後まで責任を持って面倒を見れば、殺処分は必然的に確実に減るだろう。そうなる事を切に願ひ、私はこれからも動物の事を理解し、命を大切にすることを誓う。